

平成20年6月の解説（週間天気予報）

【6月の天候状況】

上旬は日本の南に停滞した梅雨前線上の低気圧や台風第5号の影響で、東・西日本の太平洋側と南西諸島では雨の日が多くなりました。中旬は高気圧が本州付近を通過し、東北地方から東日本を中心に晴れる日が多くなりましたが、九州地方では梅雨前線の影響で大雨となりました。下旬は梅雨前線の影響で東・西日本では曇りや雨の日が多くなりました。また西日本の一部と東日本・北日本の太平洋側の一部では大雨となりました。

月を通しての日照時間は、西日本では平年よりかなり少なくなりましたが、そのほかの地方は平年となりました。降水量は東日本の日本海側と北日本では平年より少なく、東日本の太平洋側と西日本の日本海側では平年より多くなりました。気温は南西諸島では平年より高くなりましたが、そのほかの地方は平年並みでした。

【6月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より4ポイント高い67%でした。例年と比べて東北地方では9ポイント、関東甲信地方では14ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.2小さい2.6で、関東甲信、北陸地方では0.5小さくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.1大きい1.9で、ほぼ全国的に例年と同じになりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6月の週間天気予報から】

6月2日から4日は、台風第5号が本州の南海上を北東に進み、台風の北側に停滞していた前線の影響で、太平洋側を中心とした広い範囲で雨が降りました。西日本では、大雨となったところもありました。関東地方も2日の午後に南から雨が降り始め、3日は関東地方の全域で雨となりました。図1に6月3日9時の地上天気図を、図2に6月2日から4日にかけて観測された降水量を示します。

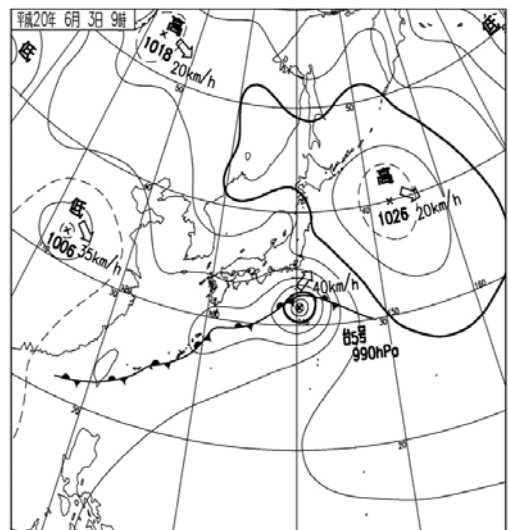


図1 2008年6月3日9時の地上天気図

2日から3日を対象とした関東地方の週間天気予報では、当初この雨を予報できませんでした。図3は、5月28日発表の予報で使用した6月3日を対象とした予想図です。このときの予想では、南海上に熱帯低気圧が予想されていますが本州から遠く、また、前線の活動も不活発な予想となっていました。このため、関東地方は南ほど雲が広がりやすいものの、晴れ間のある天気を予報していました。3日が雨の降る予報に変わったのは、3日前の5月31日からで、2日に雨が降り始める予報をしたのは前日になってからでした。

実況の経過は、熱帯低気圧が台風へと発達し、台風は予想よりも北の本州に近い進路を進んで、前線の活動も活発となりました。

台風が発生すると台風周辺の気圧配置が大きく変わることがあり、台風の動向によって週間天気予報が大きく変わることもあります。荒れた天気となる予報に変わることもありますので、台風が発生したときは、普段にも増して最新の予報や気象情報を確認するようにしてください。

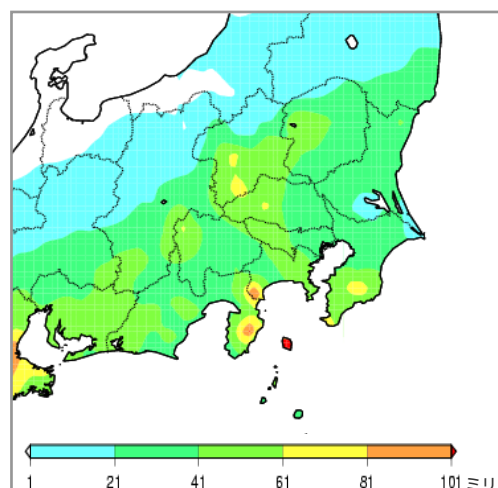


図2 2008年6月2日から4日にかけての降水量

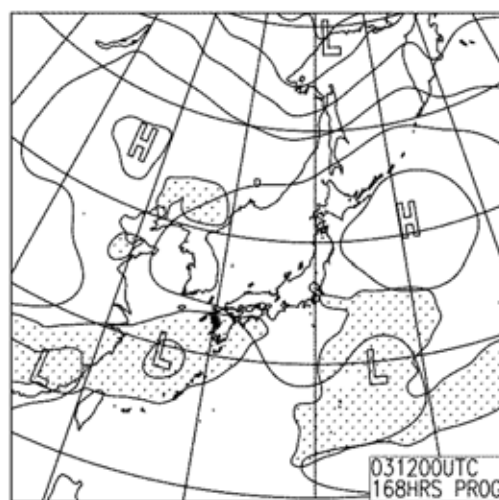


図3 5月28日発表の予報で使用した6月3日21時の地上予想図。水玉模様は降水が予想された地域を示す。

【8月の週間天気予報の利用にあたって】

8月は太平洋高気圧に覆われて晴れて暑い日が多くなりますが、天候は必ずしも毎年同じように経過するわけではなく、年によって大きな違いがあります。

2003年の8月は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、大雨による災害がしばしば発生し、月の平均気温は全国的に平年に比べて低くなりました。このため低温と日照不足で東北地方の太平洋側から東海地方にかけて水稻をはじめ農作物に大きな被害が発生しました。不順な天候は東北地方の太平洋側で顕著となり、仙台では8月の日最高気温が30を超えた日は3日だけで、1か月の日照時間合計は77.1時間と平年の50%しかありませんでした。8月に週間天気予報で曇りや雨の日が続くような予報が発表されているときには、平年より気温が低い状態が続くおそれもありますので、予想気温にも注意して農作物等の管理を万全にしましょう。また夏の雨は時として大雨となるおそれがありますので、各地の地方気象台などが発表する防災気象情報にも注意してください。